

盆控え墓の清掃依頼続々

各地のシルバー人材センター

お盆を控え、県内各地のシルバー人材センターに墓の清掃や周辺の草刈りの依頼が相次いでいる。県シルバー人材センター連合会(徳島市)によると、新型コロナウイルス禍で帰省を見送る人や、高齢になり墓の手入れが難しくなっている人が要請。本年度(8日時点)は県内全体で532件に上り、今後も受注が増えるが見込んでいます。

太陽が照りつける5日昼過ぎ。墓が自宅から離れた場所。阿南市シルバー人材センターにあり、草刈りは体力的にター会員の大津行春さん(72)もきついため同センターを頼る。依頼のあった墓の清掃に。女性「暑い中、きれい取り組んだ。同僚の北條文明さんにしてもらい感謝している」と言い、大津さんは「喜水をかけ、コケをブラシで丁寧に落とすなどして約1時間で墓をきれいにした。草刈り機で周りの雑草も取り除いた。この日は午前中にも同様の注文が2件あった。」

019年度に1367件だったのが、昨年度は1523件に増えた。主な要因は高齢化。子どもは県外にあり、夫とみられ、墓の維持管理に悩む人がお盆前などに依頼して

高齢で手入れが困難 コロナ禍で帰省見送りも



お盆を前に墓の清掃業務に当たる大津さん＝阿南市福井町

いるという。阿南市シルバー人材センターでは、墓清掃や周辺の草刈りの受注が7月に入ってから増えた。本年度は同月末時点で19件と前年同期を4件上回る。7件が県外

や市外からの依頼で、秋の彼岸や年末にかけてさらに増加する見通しだ。

河井敏之理事長(70)は「清掃する前と後や周辺の写真を撮って依頼者に送信することもあり、好評を得ている。今後は需要の高まりを見越し、専用のパンフレットを作るなどして力を入れていきたい」と意気込んでいます。

(越智浩子)